

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2370401040		
法人名	有限会社 わかば		
事業所名	うるケアホーム わかば (3階)		
所在地	名古屋市西区枇杷島4-10-5		
自己評価作成日	平成29年2月1日(水)	評価結果市町村受理日	平成29年4月19日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・日中、玄関、フロア入口の施錠は行わず、自由に外出や散歩に出かけられる。</li> <li>・利用者様ひとりひとりに合わせた個別ケアを行っている。</li> <li>・認知症の原因追求に努めており安易な薬の服用を避けている。</li> </ul>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2370401040-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2370401040-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>ホームは建物の2階と3階に開設されているが、身体拘束を行わない方針のもと、出入り口に施錠を行わない対応を行っており、職員間で連携しながら利用者の見守りが行われている。利用者の中には外に出たい方もおり、職員間で役割を分担しながら毎日の外出を行いながら個別の支援につなげている。日常的に職員間で意見交換を行う時間をつくっており、利用者一人ひとりに合わせた支援内容を職員間で共有し、利用者の意向に合わせた支援につなげている。ホーム内はゆったりとした広さが確保されており、利用者が日常生活の中で圧迫感を感じないような配慮が行われており、職員間で利用者が過ごす場所等の検討を行いながら、日常生活をのんびりと過ごすことができるように取り組んでいる。また、建物1階のスペースには、利用者と職員で制作した大きな富士山の絵が飾られてある。</p>
---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成29年2月24日		

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有して実践に繋げています。理念を描いた紙を一階に貼り付けています。	法人の基本理念をホームの支援の基本としており、いくつかある項目の中で、「自分がされたら嫌な事は他人にしない」ことを伝えており、理念の共有につなげている。また、理念を事務室内に掲示しており、意識の向上につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	わかばでの催し、散歩でのあいさつなどをし、近所の方とわかばの畑を見守って頂き、交流している。	地域の方からは、ホームに野菜を差し入れをしてもらう等の交流の他にも、幼稚園との交流の機会が得られられている。また、ボランティアの方が訪問しており、交流の機会につながっている。	地域の方との交流を深めるためにも、建物1階の活用を考えている。サロン等の取り組みを検討する等、今後のホームの取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所でイベント行事があった際にチラシなどを配り、地域の人々に声を掛けたりすることはあるが、理解や支援の方法を活かしているのかは正直微妙な気がする。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議に参加していない職員もいるが、定期的に行っており、利用者様の現状や変わったことがないかなどのお話し合いはできていると思う。ご家族様の意見などもきいておりサービス向上に活かしていると思う。	会議の名称を「ほのぼの会」としており、親しみやすい工夫が行われている。会議の際には、ホームからの運営状況の報告の他にも勉強会の機会をつくっており、ホームへの理解を深めてもらう取り組みが行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者が電話やファックスなどを通じて情報把握、連絡などを行っています。	ホームには生活保護の方が生活しており、市の担当部署との情報交換等の機会をつくっている。研修会等にもホームから出席するように取り組んでいる。また、地域包括支援センターとの情報交換の機会をつくっている。	地域包括支援センターとは、情報交換等の機会はあるが、活動等への参加等は行われていない。今後のホームにもつながるため、活動への参加、協力の取り組みに期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は施錠を行わないケアに取り組まれており、研修を通して徐々に理解を深めている。	ホーム内には施錠が行われておらず、対応が難しい利用者が生活しているが、職員が寄り添いながらの支援が行われている。また、ホームで勉強会の機会をつくり職員の振り返りにつなげたり、管理者からの注意喚起等も行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待につながる可能性のある行為を職員一同でお互いにアドバイスするようにしている上に、管理者とも相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様で成年後見制度を利用している方がいないので、学ぶ機会が少ない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては管理者がご家族様への説明をしっかりとっていると思う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に職員とご家族様が話し合う機会をつくっており職員会議で話し合っている。	ホームの行事の際には家族にも案内を行っており、家族との交流の機会をつくっている。家族からの要望等は、職員複数で対応する体制がつくられている。また、毎月のホーム便りの他にも、必要に合わせた個別の便りの作成も行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回職員会議を行っており、その際に施設に関してや利用者様に関しての幅試合をしており、課題があれば次の会議でまた話し合うなどしている。	毎月のユニット合同の会議が行われており、管理者が把握した職員からの意見等がホームの運営に反映できるように取り組んでいる。また、日常的にも申し送りを通じたミーティングが行われており、日常的に意見交換を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が成長できるように個人での話し合いもしてくれるし、職員が少しでも働きやすい様に業務の調整なども考えてくれる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修はまだわかっていないが、職員それぞれの力量などは把握していると思う。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他地区の施設との交流をしており、勉強させてもらっていると思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初の数週間は慣れるまでの間は職員が付くようにし、本人の情報収集もかねてコミュニケーションをはかり努めている。又、細かく記録に残している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様の様子など報告できるよう記録に残したり判断や分からないことなど相互的にやりとりをし、改善できるように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の様子など報告できる様記録に残したり、判断や分からないことなど相互的にやりとりをして改善できるよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	教えて頂くという姿勢を忘れず、暮らしを共にする者同士の関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の様子など伝えていくのはもちろんではあるが、色々な話をしていく中で要望や想いをくみ取るようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	美容院、百貨店での催し物に行かれるなど、昔からのなじみの場所に行きやすい様に支援されている。	利用者により、入居前からの関係の方がホームに訪問したり、行きつけの美容院を継続する等、馴染みの関係の方との交流が行われている。また、家族との外出の機会もつくられており、必要に合わせて、ホームも支援する取り組みも行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	わかば内で気の合う利用者様同士で話ができる環境を作っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	努めています。前に利用して下さったご家族様と出会う時には、あいさつをするように心がけています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの暮らし方の希望を聞くのは難しいが、利用者様が少しでも暮らしやすいように利用者様の希望になるべくあわせられる様に努めている。	職員間で担当制を活用しながら利用者の把握が行われており、職員の気付き等は、毎日の申し送りの時間にも話し合われ、職員間の共有につなげている。また、毎月のカンファレンスを実施しており、アセスメントへの反映につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴やなじみの暮らし方など把握できている部分と把握できていない部分があると思うが、日々の関わりから把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介助する中での気づき、体調の変化など状態の把握に努め、記録に残している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様がより良く暮らしやすくなるためにしている。月に一回行われる職員会議、課題や意見を相談するようにしている。	介護計画は6か月で見直しが行われており、モニタリングについては3か月で実施している。職員間でのカンファレンスや日常的なミーティングの時間等を通じて、職員間で支援内容を共有するように取り組んでいる。	介護計画に関する情報を共有し、日常の支援と記録への反映につなげる取り組みが課題でもある。今後のホームの取り組みに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様に合わせた形式の記録票を作成し、日々の変化状態を分かりやすくしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりに合わせて、その時の状況にあったケアを実践するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ある一定の利用者様は支援していると思います。近くにあるスーパーやコンビニに利用者様と買い物に行き、利用者様が暮らしを楽しめる工夫をしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問医とは連携が取れている。その他、かかりつけ医がある方は、薬がなくなる前に受診して頂く様にしている。	ホーム協力医による定期的な訪問診療が行われているが、利用者により、今までのかかりつけ医の継続も行われている。必要に合わせたホームによる受診支援も行われている。また、週1回の訪問看護による健康チェックも行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師の来所日前に利用者様の個々の状態を伝え、当日スムーズに指示や相談できる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必ずお見舞いへ行くようにし、情報や状況状態を確認をし、受け入れられる様、体制作りをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様、わかば、かかりつけ医と相談、話し合いを持てるようにしている。話し合いの結果を記録に残し、職員が目を通し、ケアを行えるようにしている。	利用者のホームでの看取り支援にも対応しており、過去には看取り支援も行われている。利用者の身体状態等に合わせた家族との話し合いが行われており、家族への説明の際には協力医の協力も得られている。	ホームでの看取り支援からしばらく間隔が開いていることもあり、改めて職員研修等の取り組みにも期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は定期的に行っているとは思わないが、利用者様の変化があった時には職員同士で意思疎通を交わすようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全ての職員で行える機会は作られていないが、水害マニュアルは作成されている。	年2回の避難訓練の際には、夜間を想定した訓練や通報装置の確認も行われている。備蓄品の確保が行われているが、現状、充分ではないという認識でもある。地域の方との協力関係も継続したテーマである。	水害のリスクを想定した準備が行われているが、ホーム建物の2階と3階にあるため、地域の方の一時的な避難等、ホームでも協力可能な内容の検討に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人一人の性格は違うが、どの利用者様も安心できる様に、丁寧な声掛けと笑顔で接するように心掛けている。	ホームの基本理念の中に、利用者への尊重が掲げられており、日常的に職員間で意識するように取り組んでいる。また、具体的な職員による対応、言葉遣い等について、管理者からの指導や注意喚起等の取り組みが行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日ごろからの声掛けの他に利用者様が自分から進んでやることには、見守りや一緒に行動して対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合で決めてしまう事も多いが、利用者様一人一人のペースで過ごせられる様に本人のペースに合わせて過ごすように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	介助が必要な方、そうでない方、も人とかかわる所にいるため、必ず服装や朝起きた時の身だしなみはしっかり行うように心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事もそうだが、最近盛り付けにも気をつけるようにしている。一人一人好きなもの、嫌いなものがあるため、少しでも多く食べられる様に好きなものはたくさん提供するようにしている。	日常的には食材業者によるメニューであるが、月1～2回、職員によるオリジナルメニューの取り組みも行われており、利用者もできる事に参加している。また、身体状態に合わせた食事形態の取り組みの他、食事の際には、職員も一緒に食事を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べない時、食事量が低下した時は、本人が食べそうなものを提供するようにしている。水分もこまめに声かけを行い、少しでも飲んで頂く様にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声掛けをしているが、一人できない利用者様に対しては不十分なところもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自己にてトイレに行かれる利用者様もいれば職員が誘導しないとトイレに行けない利用者様もいる。声かけを行い。立っていただき、便座に座っていただくが、定期的に行けてはいないと思う。	利用者全員の排泄チェック行っており、日常的な申し送りを通じたミーティングが行われており、一人ひとりに合わせた排泄支援に取り組んでいる。可能な限り、パンツで過ごすことができるように、現状を維持できるように取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	取り組んでいます。利用者様のトイレでの排泄後、職員が利用者様の歩行を手伝う際、運動の為に少し遠回りしてから席についてもらうようにすることもあります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	自立している方もみえるので、時間などのタイミングで声かけをしたりしており、残存機能を利用し、できるところは行えるよう、声掛けをし、行っている。	入浴は、現状、週2回の方が多いが、希望に合わせた回数にも取り組んでおり、時間は午前と午後に対応している。また、身体状態に合わせた職員複数での対応が行われている。また、季節に合わせた柚子湯や菖蒲湯の取り組みも行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、傾眠が強かったり、具合が悪そうな利用者様はリビングか居室のベッドにて臥床して頂く様にしている。本院が嫌がる場合は無理に寝かせない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全ての利用者様の服薬されている薬の種類は理解できておらず、その都度薬ファイルなどで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	女性の方が比較的多いので洗いにくいものや洗い物を進んで手伝ってくれたりし、それにより他の方にも刺激され「私も…」みたいな形で行われたり、また、外出されたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なるべく希望に沿って外出するようにしているが、できない時もあり、職員の都合で決まってしまう部分もあると思う。一回で外出できる利用者様がある程度限られてしまう。ご家族様と一緒に外出される方もいる。	利用者により、毎日の外出支援が行われており、職員間で担当をつくる等の取り組みが行われている。また、季節に合わせた花見や公園等への外出行事も行われている。また、家族の支援も得ながら、個別に居酒屋等に出かけている方もいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を持っている事で安心される方、お金で私物を買われる方など、個々の利用者様に合わせている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	正月や暑中見舞いなど本人が出したいという希望に対応したり、電話を自由に使えるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った折り紙をガラスに飾ったりしています。また、床自体が茶色なので、刺激が少ないと思うと同時に、暖かい雰囲気は提供できていると思う。	ホームのリビングはゆったりとした広さが確保されており、建物の2階と3階であるため採光にも優れており、利用者は日中を明るい雰囲気でも過ごしている。また、1階のフロアーには、利用者と職員で制作した富士山の絵が飾られてある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様同士であればリビングにいる時も隣同士で座って頂き、会話される事が多い。また、気の合う利用者様同士であれば、外出する事もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビを見られる利用者様は居室にTVが置いてある。テレビがない利用者様もいるが、本人の使い慣れたもの、好みのものを置いて過ごしやすい様工夫している。	居室には、利用者により、様々な家具類や好みの物等の持ち込みが行われており、意向等に合わせた個室づくりが行われている。現状、全員の方がベッドで生活しているが、過去には布団を敷いて生活していた方がおり、対応は可能である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレ等には分かる様に表札をついたりして、分かりやすく表示したりしている。		